

きらきら発電、いよいよ10年目に突入

10周年記念事業で「きらきら発電10年の歩み」を映像化する計画が浮上

きらきら発電は10周年記念事業として「10年の歩み」を映像化する計画を立て、2月役員会でその予算として50万円計上しました。映像は外注化する予定で、これを機会に「10年の歩み」を振り返ってみます。

和田武講演会がきっかけで幸運な船出

宮城初の市民共同発電所きらきら発電結成のきっかけは、2014年8月30日みやぎ反核医師の会が開いた「自然エネルギー学習会」で、講演者和田武氏(元日本環境学会会長)が「市民で作る地産地消の発電所こそ、今後の主役」と強調され、この学習会に水戸部秀利氏と広幡が参加していました。水戸部秀利氏は内科医・宮城厚生協会理事長で定年退職を迎えようとしていました。後にきらきら発電発足総会の席上、水戸部氏は次のように発言しています。「海釣りの大好きな私は、定年退職の退職金で釣り船を買おうと考えていました。しかし3・11事故で海や魚が放射能に汚染され、釣り船をあきらめざるを得ませんでした。そんな時、和田武先生が市民共同発電所だと教えてくれたので、そうだ、これだ、退職金の使い道は。そう発想したのです。」



一方の広幡は、水戸部医師が長町病院院長時代に長町病院の事務をしていました。でも52歳で仕事がいやになり早期退職し、2014年は無職で過ごしていました。時間を持て余す暇な人間がいた。それがNPO法人結成に幸いしたのです。しかも広幡は2012年に市民発電所の結成を泉区民に呼びかけ、NPOの定款も作っていました。ですが、無職で社会的地位もない人間の夢物語に乗っかる人は一人もいませんでした。

そんな広幡に、水戸部氏が高山氏経由でお声をかけてくれたのです。それが9月中旬のこと。さっそく3人は長町病院医局でうちあわせを持ち、2回の打ち合わせで、10月1日呼び掛け文作成、11月30日結成総会、若林区・太白区中心に発電所候補地探し、基金(無利子無担保15年の借金)2000万円目標を確認しました。(写真上=2015年9月6日井土浜1号機開所式)

それにプロジェクトウサミさんと既知の仲だったことも幸いしました。プロジェクトウサミは2010年広幡家で太陽光を設置するときに見積もりに参加した会社ですが、その時「あと3万円下げて」という私の要求に答えていただけず、すれ違いになった会社です。しかし社長さんのセールス態度に私はぞっこん惚れていました。「できるだけ情報を相手に与え、相手の判断を待つ」これが現在の宇佐美会長のセールスポイントでした。だから残念な思いで2010年の春、別れたのです。しかし人生は不思議です。その宇佐美社長と「渡されたバトン～さよなら原発」の試写会の席上で出会ったのです。3年後の2013年3月30日のことです。私は上映実行委員会事務局を担当していました。「宇佐美さんも脱原発ですか」と声をかけ、再開を喜び合いました。その再開があったから、NPO法人結成の話が来た時、すぐにプロジェクトウサミに相談しました。

プロジェクトウサミは私たちが発想していなかった過積載(パワコン能力以上のパネル積載)方式の採用を考えていました。これも幸いしました。しかもプロジェクトウサミは短期間に太陽光発電設置の申請を進めてくれました。私どもはNPO法人の認可を受けてからと悠長に構えていたのに、宇佐美さんは準備会の名で東北電力や経産省に申請できると教えてくれました。おかげで32円単価の申請に間に合ったのです。(報告=広幡 文)

きらきら発電市民共同発電所ニュース

2024年3月号別冊 第114号

〒981-3215 仙台市泉区北中山3丁目17-12

電話 070(2010)3777

HP kirakirahatuden.com/

Eメール hirohata3888@outlook.jp

2024年総会5月6日若林区若林クリニック 記念講演は新電力GPPの竹村英明氏

NPOきらきら発電の2024年度総会(第10回)は、来たる5月6日(月)午後12時半より午後3時半まで、仙台市若林区若林クリニックにて開催します。午前9時半から11時半までは1号機井土浜発電所の草取り、お昼をはさんで12時半より午後2時まで総会議事。そして午後2時から3時半までが記念講演です。今年には新電力グリーンピープルズパワー(GPP)株式会社代表取締役で全国の市民電力連絡会理事長の竹村英明氏を講師に招きます。竹村氏は2度目の講演となります。講演はオンラインです。総会は昨年に続き、**現地集合とオンライン併用で行います**。参加確認は4月に行います。

記念講演は「市民電力の今後の在り方を探る」がテーマ

FIT(固定価格買取制度)が終了し、家庭以外の太陽光発電は自家発電自家消費型かPPA方式(電力を使う人に直接買ってもらう)しか考えられない時代になりました。そんな時代に市民電力はどんな活動をしたらいいのか、関東地域で小売り電力会社を運営する竹村英明氏は「今こそ地産地消の時代、発電する人が地域の仲間に電気を使ってもらう時代」と強調します。要するに「自然エネルギーの電力を市民が自分たちで作り自分たちで使う時代なのだ」と説明します。

そして本人の運営する新電力グリーンピープルズパワー(GPP)株式会社を紹介しながら、「きらきら発電が宮城県内で50名の電気使用者(ユーザー)を獲得できれば、きらきら発電の発電した電気を仙台で売電できる」「GPPの代理店になるだけで、きらきら発電の電気の販売が可能」とのこと。

2019年よりパルスシステムやみんな電力との委託契約で、きらきら発電の電気を市民に届ける方法を開始しましたが、また違った方法で輪を広げることができそうです。

講師竹村英明氏のプロフィール

市民電力連絡会理事長、イージーパワー株式会社代表取締役、グリーンピープルズパワー(GPP)株式会社代表取締役。1951年広島市生まれ。1976年横浜市立大学卒業。水俣病告発、公害反対運動、反核運動などを経験し、1980年から原発の核燃料輸送監視活動。1986年チェルノブイリ原発事故後に、神奈川原発井戸端会議立上げ。1989年に東京電力・福島第二原発3号機事故に対する市民事故調査委員会立上げ。1992年より衆議院議員秘書。1994年政策秘書。

1995年から国際環境保護団体グリーンピース・ジャパン職員。1997年の気候変動枠組条約京都会議(COP3)でコンテナ車に太陽光発電パネルを乗せ、荷台を台所に改造した「ソーラーキッチン」によるソーラーアクションを展開。1998年から参議院議員秘書。自然エネルギー促進議員連盟の事務局。2003年衆議院選挙に立候補落選。2004年より環境エネルギー政策研究所職員、飯田市「おひさま事業」を担う。2008年より同研究所の事業会社エナジーグリーン(株)でグリーン電力証書事業。2010年同社副社長。2011年から環境エネルギー政策研究所顧問兼務。祝島や東日本大震災支援のプロジェクト担当。同年「脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会」(略称:eシフト)設立に参画。2013年3月に政治団体・緑茶会(脱原発総選挙政治連盟)を立ち上げ代表。同年4月発足した原子力市民委員会で、第3部会(原発ゼロ行程部会)メンバーと公論形成チームメンバー。2014年2月、首都圏の発電事業ネットワーク市民電力連絡会を設立、同会会長。(2017年にNPO法人となり、現役職は理事長。)



グリーンピープルズパワー株式会社=新宿区新宿 2-4-2 カーサ御苑 903=takemura@greenpeople.co.jp